

うるち米▲500～▲4,800円、3年産米のJA概算金が出揃う

令和3年産米のJA概算金(仮渡金、内金、買取を含む)がほぼ出揃った。主なうるち米の単価は、一部を除いて前年産に比べて▲500円～▲4,800円。近年の最安値だった平成26～27年産に近い水準となっている。

西日本は天候不順で作柄低下が懸念されるものの、作付面積の多い東日本の作柄はおおむね平年以上を確保しそうな状況で推移。新型コロナ禍で業務用米等の需要も落ち込み、古米在庫は近年では最も膨らんでおり、今後も供給過剰が続くと見込まれていることが背景にある。また、事前契約数量が前年産を下回っていることも要因で、一部の人気銘柄を除き、差損リスクを懸念して下げ改定が決められた模様。

主力銘柄の動向(前年産比)は、山形つや姫▲500円、北海道ゆめぴりか▲1,200円、新潟一般コシヒカリ▲1,800円、秋田あきたこまち▲2,000円、北海道ななつぼし▲2,200円、茨城コシヒカリ▲2,300円、宮城ひとめぼれ▲3,100円など。最も下げ幅が大きかったのは、栃木とちぎの星▲4,800円。2年産でタイト感があつた魚沼コシヒカリは据え置かれた。

また、新型コロナ禍で供給過剰になっている酒造好適米も、契約栽培分を除いて▲500円～▲2,200円となり、生産抑制を促す格好。イベント・お土産・お祝い需要が消滅している水稲もち米も、契約栽培分を除き▲500円～▲3,900円となった。

主な産地銘柄のJA概算金・仮渡金(令和3年産)

(単位: 60kg当たり、消費税込み/円)

産地銘柄	JA概算金(仮渡金、精算金)						(参考)生産者概算金		
	R3年産	前年差	R2年産	R元年産	H30年産	H27年産	H26年産	H25年産	
うるち米	北海道ゆめぴりか(基準品)	13,500	▲1,200	14,700	14,700	14,500	13,000	12,000	13,500
	北海道ななつぼし	11,000	▲2,200	13,200	13,500	13,400	10,800	10,000	12,000
	青森青天の霹靂(買取)	15,100	▲500	15,600	15,600	15,000	13,000	-	-
	青森まっしぐら	8,000	▲3,400	11,400	12,200	12,000	9,000	7,300	10,500
	宮城ひとめぼれ	9,500	▲3,100	12,600	13,300	13,100	10,000	8,400	11,200
	秋田あきたこまち	10,600	▲2,000	12,600	13,300	13,100	10,200	8,500	11,500
	山形つや姫	15,800	▲500	16,300	16,300	16,000	15,500	12,500	13,700
	山形はえぬき	10,000	▲2,200	12,200	13,000	12,900	10,500	8,500	11,000
	福島会津コシヒカリ	10,000	▲2,600	12,600	13,200	13,200	11,300	10,000	12,100
	福島中通りコシヒカリ	9,500	▲2,600	12,100	12,700	12,700	9,300	7,200	11,100
	福島天のつぶ	8,500	▲3,000	11,500	12,200	12,200	8,300	7,000	10,000
	茨城コシヒカリ	10,200	▲2,300	12,500	13,500	13,500	11,000	9,000	11,500
	茨城ゆめひたち	8,000	▲3,000	11,000	12,000	12,000	7,800	6,800	9,800
	栃木あさひの夢	7,000	▲4,600	11,600	12,600	12,600	9,000	6,500	10,300
	新潟魚沼コシヒカリ	16,500	0	16,500	17,400	17,200	16,200	14,200	16,700
	新潟一般コシヒカリ	12,200	▲1,800	14,000	14,900	14,500	12,800	12,000	13,700
富山コシヒカリ	11,000	▲2,000	13,000	13,000	13,000	11,300	10,500	12,300	
滋賀コシヒカリ	11,500	▲2,100	13,600	14,200	14,000	-	9,200	12,300	
もち米	北海道水もち	12,000	0	12,000	11,500	11,500	11,500	11,500	11,000
	岩手ヒメノモチ	11,500	▲800	12,300	12,100	11,800	10,500	9,500	10,500
	新潟こがねもち	契約	0	16,400	16,000	15,000	15,000	15,000	15,200
	新潟わたぼうし	契約	0	14,400	14,000	13,500	14,300	14,000	12,700
	富山新大正糯	13,500	▲500	14,000	13,000	13,000	13,000	11,000	12,000
酒米	秋田美山錦	12,050	▲1,000	13,050	13,850	13,850	13,250	11,750	13,500
	新潟五百万石	契約	0	14,300	15,000	15,000	15,000	15,000	15,500
	新潟たかね錦	契約	0	14,300	15,000	15,000	15,000	15,000	15,500

(注)米穀データバンク調べ。生産者概算金の事例を含む。当初の設定価格で、追加分は含まず。

3年産主食用うるち米の相対基準、前年比1～2千円下げ(全農系統)

全農系統における令和3年産主食用うるち米の相対基準価格が取引先に通知され始めた。

米穀データバンク調べによると、2年産でタイト気味に推移した魚沼コシヒカリ、山形つや姫などが据え置きとなったものの、全般的には前年産最終比1,000～2,000円程度(最多1,500円)の引き下げ。同じような供給過剰環境にあった平成26～27年産並みまで下げ改定する格好になっている。

3年産では過去最大規模の転作に取り組んだが、新型コロナ禍で古米消化が大幅に後倒しになったため、下げ修正を余儀なくされた。事前契約が積み上がらず、差損リスクを回避したことも要因のひとつ。

下の図表は、主な産地銘柄における平成26～令和3年産のスタート価格一覧と、新潟一般コシヒカリの相対推移グラフ。市中スポット価格との差が大きく開いているのが特徴で、今後は3年産の作柄、コロナ関連の需要動向、4年産生産調整の取り組みなどがカギを握りそう。

全農系統の主食用うるち米相対基準(スタート価格、東京・大阪裸1等) (60kg当たり、円)

産地	銘柄	H26年産	H27年産	H28年産	H29年産	H30年産	R元年産	R2年産	R3年産
北海道	ゆめぴりか	15,700	15,950	15,950	16,300	16,300	16,300	16,300	15,700
	ななつぼし	12,050	12,450	13,150	14,700	14,900	14,900	14,600	12,750
宮城	ひとめぼれ	12,200	12,800	13,500	14,400	14,800	14,800	14,300	12,800
秋田	あきたこまち	12,200	12,900	13,600	14,600	14,800	14,800	14,300	13,000
山形	つや姫	16,100	17,200	17,200	17,200	17,200	17,500	17,500	17,500
	はえぬき	12,000	12,600	13,300	14,200	14,500	14,500	14,000	12,500
栃木	Aコシヒカリ	12,500	13,000	13,500	14,460	14,960	14,970	14,470	12,970
新潟	魚沼コシヒカリ	18,500	19,300	19,800	19,800	19,800	19,800	19,300	19,300
	一般コシヒカリ	15,000	15,500	16,000	16,300	16,300	16,600	16,100	15,100
	こしいぶき	11,500	12,000	13,200	14,300	14,500	14,500	14,000	12,500
富山	コシヒカリ	13,300	14,000	15,000	15,300	15,300	15,400	15,400	14,200
三重	一般コシヒカリ	12,500	13,200	13,700	14,200	14,600	14,800	14,300	12,800

(注)米穀データバンク調べ。各年産スタート価格で、期中改定もある。

